2020

新春特集

渡辺市長特別インタビュー
このまちの未来

昨年4月、市民の皆さんの期待を一身に背負って渡辺美知太郎市長が就任。以来、持ち前のリーダーシップを発揮し、このまちの未来に向けたさまざまな政策が進められています。

今回の新春特集では、渡辺市長が目指すこのまちの未来像と、ワクワクドキドキさせてくれる今年の取り組みについて話を伺いました。

――市長に対する市民の皆さんの期待を、どのように受け止めていますか

私が市長に就任してから毎日、市民の皆さんの期待を強く感じています。さまざまな場所に赴く度に、市民団体や学校、地域が一体となってまちづくりを行っているなという印象を受けました。

どんな政策でも、外側と内側の両方の目線を持つことが重要です。その上で、市民の皆さんに「ワクワクドキドキしてもらえるか」、このまちを「サステナブル[※]な地域にしていくにはどうしたらよいか」の2点を特に意識しながら、スピード感を持って取り組むようにしています。

――サステナブルな地域とは

近年は台風や豪雨などの自然災害がものすごく増えていたり、海外情勢が緊迫していたりと、予測できない将来的なリスクが多数あります。だからこそ、私は本市をどんなリスクが起きても生き延びられる地域にしたいと思っています。この地域は、災害に強いだけでなく、疏水を使った小水力発電や牛ふんを使ったバイオマス発電など、再生可能エネルギーの宝庫だと感じています。理想はただ売電するのではなく、地域で作った電力は地域で消費すること。そうすれば、災害が起きても電力の供給が続けられますよね。

また、今、気候変動が大きなリスクとなっていることから、今年の4月には市町村レベルでは全国初となる地域気候変動適応センターを設置します。気候変動によるリスクは、災害だけでなく、本市の基幹産業である農業と観光業にも大きな影響を与えます。

例えば農業の場合、地球温暖化が進めば、暑さに強い品種に改良が必要だったり、本市の気候に適した作物が変わったりします。地域気候変動適応センターの設置により、気候変動が起きてから対応するのではなく、それを見越したアクションができるのではと考えています。

観光業においても同じで、本市は「避暑地」というイメージがありますが、近年は夏の暑さも厳しくなってきています。夏の暑さを見越して適応することで、グリーンツーリズムや清流で川下りなど、暑さを楽しめる観光パッケージなどが考えられるようになります。

また、昨年12月には県内で初めてとなる「CO_2排出量実質ゼロ宣言」を行いました。世界的にもCO_2排出には厳しい意見が出ていますし、市民の皆さんもまずは意識をするところから始めてほしいと思っています。環境問題に対して市としては、4月に設置する気候変動対策局で具体的な取り組みを検討していきますが、大切なのはそれらの取り組みを「続けること」です。続けるためには楽しく取り組んでいかなければいけないと思っています。「こうやって解決出来たらいいよね、楽しいよね」という気持ちでないと、続いていきませんからね。

これから待ち受けるリスクの先を見越し、市民の皆さんと協力しながら未来永劫（えいごう）本市が繁栄するよう、サステナブルなまちづくりを一緒に行っていきましょう。

※サステナブル
持続可能であること。現在では、従来の環境問題への取り組みと比べて斬新であることから、さまざまな分野で「環境や自然に配慮した」という意味を付け加える単語として広がっている。

昨年12月3日、地球温暖化や気候変動といった地球規模の課題を地域レベルで考え、市民を始めとした皆さんの理解や問題意識を深める契機として、2050年までのCO_2排出量実質ゼロを目指すことを宣言しました。